

経済研究所 年報

第 28 号
April 2015

研究報告

中国華南の日系中小企業とローカル企業
転換期を迎え、新たな方向に向かう

.....関 満博

中国経済の現状と課題

「二つの畏」に挑む習近平政権

.....関 志雄

グローバリゼーションをどうとらえれば
いいのだろうか 光と影

.....平井 俊顕

戦前日本のリカードウ研究

1869 - 1929年試論

.....出雲 雅志

古代メソポタミアにおける

市場，国家，貨幣

商人的経済再考

.....明石 茂生

成 城 大 学

經 濟 研 究 所
年 報

第 28 号

成 城 大 学

THE INSTITUTE FOR ECONOMIC STUDIES
OF
SELJO UNIVERSITY
2015

巻 頭 の 辞

フランスの経済学者、トマ・ピケティ氏の「格差論」が注目されている。昨年、我が国でも翻訳が発行された『21世紀の資本』の中で、先進資本主義諸国においては所得や富の不平等の進展する傾向がみられ、世界大戦のショックにより縮小している時期もあるものの、歴史の展開とともに格差が拡大しつつあることを、200年余りの膨大なデータを基に明らかにしている。ピケティ氏の議論は世界中の研究者に注目され、マスコミにも取り上げられ、たちまち、時代の寵児となった。その議論には理論的、実証的に問題点があるとの異論も多く提起されているが、大筋において首肯できるものであると思われる。特に現在米国においては一部経営者の受け取る巨額の報酬が問題視され、典型的な格差大国とみられている。しかし、格差問題は米国に限らず、程度の差はあれ世界各国が直面している重要な問題であり、何らかの政策的対応が喫緊の課題であるとされている。実現可能性には疑問符がつくが、資本に対する世界的な累進課税を提唱し、格差問題解決へ意欲的な姿勢を示しているピケティ氏の主張には共感するところが多々ある。

日本では米国とは状況が違い、富や所得の格差はそれほど深刻な状態ではないとの意見もあるが、別の意味でさまざまな格差問題が噴出している社会状況にあるともいえる。男女間の格差、正規労働者と非正規労働者の格差、高齢者と若者との世代間格差、東京や大阪などの巨大都市圏と地方の格差、あるいは教育における格差などが指摘されている。こうした格差が人々の生きづらさや閉塞感に繋がっている。アベノミクスにより一時のデフレ状況から脱出できるかのような期待はあるが、それを格差という視点から捉えた場合、本当の意味で人々の生活実感や経済状況の改善につながるかどうか不透明である。

かつてケインズは、1930年に発表したエッセイで、およそ100年後にはほとんどの経済的問題は解決されるだろう、と述べたが、その実現への道はまだはるかに遠いように思われる。確かに総体として経済は大きく成長したが、それは無視できないほどの格差の拡大を内包するものであった。そもそもどの程

度の格差が社会的に受容されるべきなのか、格差それ自体が問題なのか。格差の固定化が問題なのか、格差と経済成長の関係はどうか、問われるべき問題は、多岐にわたっており、未解決な問題が山積している。また、それは一国単位で論じられてよいものなのか、グローバルな観点からみた先進国と途上国との格差、あるいは途上国間の格差も忘れられてはならないであろう。ともすると議論は拡散する傾向もみられるが、経済学は言うに及ばず、社会科学的研究に携わる者にとって真摯に取り組んでいかなければならない重要な問題提起がピケティ氏によって改めてなされたといえよう。

当研究所は金融経済に関わるテーマを中心に、理論分析や歴史分析、現状分析を展開し、幅広く学外の研究者や専門家を招き、研究活動を行ってきた。これまでの研究の蓄積に加えて、当研究所の社会的存在の意義を再確認し、さらに一步前進し、今後の研究活動の深化を図るために、ピケティ氏の指摘する格差問題など、現代の資本主義社会の在り方に起因するさまざまな構造的な問題も視野に収めていくことが必要であると思われる。

昨年度は3本のプロジェクトを推進した。第1部、「市場と統治 経済システムの長期的変動に関する歴史分析」、第2部、「成長企業支援の金融システムと政府支援の比較研究 成熟経済・成長経済・開発途上経済の問題解決に向けて」、第3部、「多極化するグローバル社会におけるビジネスシステムの構築に関する研究」である。それぞれのプロジェクトにおいてメンバーによる発表や外部の研究者を招いての研究会が行われた。その成果の一端はグリーンペーパー（研究報告）として発刊されている。また、外部の講師を招いての講演会が春・秋の2回開催され、講演された、関志雄氏（野村資本市場研究所シニアフェロー）、関満博氏（明星大学経済学部常勤教授・一橋大学名誉教授）、出雲雅志氏（神奈川大学経済学部教授）、平井俊顕氏（上智大学名誉教授）には、ご多忙の中、本年報にご寄稿いただき、心より感謝したい。

2015年度から、私が所長を務めることになり、当研究所は新体制の下で運営される。何分にも非力であることは自覚しており、どれほどの貢献ができるか定かではないが、新主事の立川潔教授をはじめ、各プロジェクトリーダーの先生方、所員そして学内外の研究者の協力を得ながら、着実に研究成果を生み出すとともに、広く社会に向けて情報の発信に努めていきたい。昨年度の終わりに前所長の明石茂生教授がメキシコへ赴かれ、グアダラハラ大学との間で学

術交流協定の覚書を正式に締結した。これまでも当研究所ではグアダハラ大学との学术交流を実施し、プロジェクト研究においても環太平洋地域を含むグローバルな研究を展開してきたが、これを契機に途上国を含めたグローバルな視点からの研究に一層注力していきたい。グローバルに見れば、国ごとの産業の発展段階は異なっており、富や所得のみならず、色々な面で厳然と大きな格差が存在している。その実状をきちんと捉え、それをどう克服し、成熟国、成長国、途上国を含めて、いかに成長の果実を享受できるようにするのか、といったことも大きなテーマとなる。

当研究所の活動が首尾よく成果を挙げるためには、所員をはじめとして、学内外の研究者の協力が不可欠である。一層のご支援とご協力をお願いする次第である。

2015年4月

成城大学経済研究所長

手塚 公 登

目 次

巻頭の辞	手塚公登.....	1
研究報告		
中国華南の日系中小企業とローカル企業	関 満 博.....	7
転換期を迎え、新たな方向に向かう		
中国経済の現状と課題		
「二つの罨」に挑む習近平政権	関 志 雄.....	81
グローバリゼーションをどうとらえれば		
いいのだろうか 光と影	平 井 俊 顕.....	107
戦前日本のリカードウ研究	出 雲 雅 志.....	133
1869 - 1929 年試論		
古代メソポタミアにおける市場、国家、貨幣	明 石 茂 生.....	163
商人的経済再考		
研究所だより		237
前号目次・編集後記		243
「経済研究所年報」刊行一覧.....		244

研究所だより

会 議

運営委員会

平成26年度

第1回 平成26年4月24日(木)

第2回 平成26年10月23日(木)

第3回 持ち回り

(平成26年11月19日)

第4回 持ち回り

(平成27年1月22日)

第5回 平成27年2月24日(火)

第6回 持ち回り

(平成27年3月4日)

所員会議

平成26年度

第1回 平成26年4月22日(火)

第2回 平成26年10月21日(火)

第3回 持ち回り

(平成26年11月17日)

第4回 持ち回り

(平成27年1月20日)

第5回 平成27年2月21日(土)

第6回 平成27年3月4日(水)

企画委員会

平成26年度

第1回 平成26年6月12日(木)

第2回 平成26年10月7日(火)

研究報告会

第77回

日 時 平成26年6月7日(土)

<第1部>

講演者 関志雄氏(野村資本市場

研究所 シニアフェロー)

演 題 「中国経済の現状と課題
-「二つの罌」に挑む習
近平政権-」(本号に掲
載)

<第2部>

講演者 関満博氏(明星大学経済
学部常勤教授・一橋大学
名誉教授)

演 題 「震災後の日本産業を考
える」

(本号に『中国華南の日
系中小企業とローカル企
業 - 転換期を迎え、新た
な方向に向かう - 』とし
て掲載)

第78回

日 時 平成26年10月11日(土)

<第1部>

講演者 出雲雅志氏(神奈川大学
経済学部教授)

演 題 「戦前日本のリカードウ
研究」

(本号に『戦前日本のリ
カードウ研究 - 1869 -
1929年試論 - 』として掲
載)

<第2部>

講演者 平井俊顕氏(上智大学名
誉教授)

演 題 「グローバル化をどうとらえればいいのか 光と影」

（本号に掲載）

経済研究所共催 日本金融学会中央
銀行部会

日 時 平成26年9月16日（火）

<第1部>

講演者 齊藤壽彦氏（千葉商科大学教授）

演 題 「日本銀行券に対する信
認問題 日本国債の無制
限的発行との関係を中心
として」

<第2部>

講演者 馬場直彦氏（ゴールドマ
ンサックス・日本経済担
当チーフエコノミスト）

演 題 「異次元緩和は長期金利
をどれだけ押し下げている
のか？」

経済研究所共催 オーストラリア学
会地域研究会

日 時 平成26年11月15日（土）

テーマ 「オーストラリアの財政
・政府間財政関係」

<第1部>

講演者 加藤慶一氏（国立国会図
書館 調査及び立法考査
局財政金融課）

演 題 「オーストラリアとニュ
ージーランドの税・給付
制度 累進度および再分
配効果と効率性等との相
克」

<第2部>

講演者 橋都由加子氏（東京大学
大学院経済学研究科特任
助教）

演 題 「オーストラリアにおけ
る財政再建 - 政府間財
政の視点から - 」

ミニ・シンポジウム

第1回

日 時 平成26年7月2日（水）

発表者 茶野 努 氏（武蔵大学
経済学部教授）

題 目 「信用金庫の理事会規模
・構成はリスクテイクと
効率性に影響するか？」

第2回

日 時 平成26年7月10日（木）

発表者 大森 弘喜 氏（所員）

題 目 「フランス社会住宅の社
会史・思想的系譜
H. B. M.（低廉住宅）構
想の実現」

第3回

日 時 平成26年11月11日（火）

発表者 平野 創 氏（所員）

題 目 「日本の化学産業におけ
る国際競争力の変化」

第4回

日 時 平成26年11月27日（木）

発表者 福光 寛 氏（所員）

題 目 「シャドーバンキングに
ついて中国では何を議論
しているか」

第5回

日 時 平成27年1月13日（火）

発表者 立川 潔 氏（所員）

題目 「社会構成原理としての
信託 - エドモンド・バー
ク - 」

第6回

日時 平成27年3月5日(木)
発表者 岩崎尚人氏(所員)
黄 賀氏(成城大学大
学院経済学研究科博士課
程後期)

題目 「新興国企業のグローバ
リゼーションに関する研
究 - 中国企業の事例を中
心として - 」

日墨学術交流

日時 平成26年10月28日(火)
発表者/題目

1. Dr. Taku Okabe, "PROMEJ
の研究の過程・成果"
2. Dr. Taku Okabe, "Compara-
tive analysis of the SMEs
laws in Mexico and Japan"
3. Dr. Jesus Arroyo Alejandro,
"Economic dynamism and
urban migration in Mexico!"
4. Dr. Antonio Mackintosh
Ramirez, "Cultures in busi-
ness conducts of Mexico and
Japan"
5. Dr. Leo Guzman Anaya,
"Japanese FDI and usage of
local suppliers in the western
region of Mexico"
6. Mtra. Maria Guadalupe
Lugo Sanchez, "Japan-
Mexico EPA: Analysis of

trade creation and trade di-
version during 1999-2009"

7. Dr. Salvador Carrillo Re-
galado, "Japan-Mexico EPA
and its impact on bilateral
trade for companies in the
Central West of Mexico"
8. Mtra. Martha Elena Campos
Ruiz, "Lifestyle of Japanese
residents in Jalisco"

日時 平成26年11月6日(木)

発表者/題目

Dr. Carlos Fong Reynoso,
"United Mexican States -Past,
Present and Future"

刊行物

長期プロジェクト報告として以下の
書物を刊行した。

福光 寛(所員)著

中国のシャドーバンクをどうと
らえるか - さまざまな定義の併
存 肯定説と中小企業金融への
貢献説 -
(経済研究所研究報告 68)

福光 寛(所員)著

中国の銀行理財についての規制
(経済研究所研究報告 69)

岩崎尚人(所員)・黄 賀 著

中国の経済成長と展望
(経済研究所研究報告 70)

〔組 織〕

（平成27年4月1日現在）

所 長	手 塚 公 登	社会イノベーション学部教授
主 事	立 川 潔	経済学部教授
運 営 委 員	手 塚 公 登	所 長
	立 川 英 順 之 一	主 事
	白 井 部 本 豊 博	経 済 学 部 長
	戸 部 本 豊 博	文 芸 学 部 長
	鋤 古 川 良 治	法 学 部 長
	佐 藤 文 夫	社会イノベーション学部長
	村 本 孜	所 員
所 員 （50音順）	相 原 章	経 済 学 部 教 授
	明 石 茂 生	経 済 学 部 教 授
	浅 井 良 夫	経 済 学 部 教 授
	伊 地 知 寛 博	社会イノベーション学部教授
	岩 崎 尚 人	経 済 学 部 教 授
	上 杉 富 一	文 芸 学 部 教 授
	上 田 晋 真	経 済 学 部 教 授
	内 田 真 人	社会イノベーション学部教授
	大 隈 宏 武	社会イノベーション学部教授
	大 津 弘 喜	経 済 学 部 教 授
	小 平 裕 博	経 済 学 部 教 授
	小 宮 路 雅	経 済 学 部 教 授
	佐 藤 文 夫	法 学 部 教 授
	庄 司 匡 宏	経 済 学 部 准 教 授
	杉 本 川 義 行	経 済 学 部 教 授
	立 川 潔	経 済 学 部 教 授
	塚 原 英 敦	経 済 学 部 教 授
	手 塚 公 登	社会イノベーション学部教授
	塘 誠	経 済 学 部 教 授
	中 田 真 佐 男	経 済 学 部 教 授
	花 井 清 人	経 済 学 部 教 授
	林 幸 司	経 済 学 部 准 教 授
	林 田 伸 一	文 芸 学 部 教 授
	平 井 康 大	社会イノベーション学部教授
	平 野 大 創	経 済 学 部 准 教 授
	福 光 寛 子	経 済 学 部 教 授
	牧 野 圭 志	文 芸 学 部 教 授
	村 田 裕	社会イノベーション学部教授
	村 本 孜	社会イノベーション学部教授

	森川俊孝	山重芳子		法学部教授 経済学部教授
客員所員 (50音順)	岡部		拓	ハリスコ州立 グアダラハラ大学教授
	吉川卓也	角田俊男		中村学園大学流通科学部准教授 武蔵大学人文学部教授
	都留信行	花枝英樹		産業能率大学経営学部准教授 中央大学総合政策学部教授
	福島英章		雄	本学非常勤講師 山梨大学教育人間科学部非常勤講師
	藤倉孝行			独立行政法人 中小企業基盤整備機構
	藤垣芳文	峯岸信哉		成蹊大学経済学部教授 名古屋経済大学経済学部准教授
研究員 (50音順)	柿原智弘			本学大学院社会イノベーション 研究科博士課程後期修了
	小久保雄介			本学大学院経済学 研究科博士課程後期修了
	松尾茉子			本学大学院経済学研究科 博士課程後期単位取得満期退学
事務	西畑利恵	柳澤美奈子		大学事務局総務課 大学事務局総務課

前 号 目 次

研究報告

検証・日本の財政

財政赤字の構造分析	田 中 信 孝.....	7
アメリカの予算編成過程と財政民主主義	渡 瀬 義 男.....	55
EU の国債とアベノミクス	代 田 純.....	81
戦後アメリカの国債管理と国債	池 島 正 興.....	129
日本型モデルとしての中小企業支援・政策システム		
中小企業金融を中心とした体系化	村 本 孜.....	163

編集後記

成城大学経済研究所年報第28号が刊行の運びとなった。当研究所では昨年度、講演会2回、ミニ・シンポジウム（日墨学術研究交流を含む）8回が開催されたほか、学外の学会との共催事業も2件行われた。6月の講演会では最近のアジア経済における変革、変容の動向をご紹介いただくために、お二人の先生をお招きした。関志雄氏（野村資本市場研究所シニアフェロー）は「中国の現状と課題 「二つの罫」に挑む習近平政権」と題してご講演され、中国が直面する課題について「中所得の罫」と「体制移行の罫」という観点から明快に解説された。関満博氏（明星大学経済学部常勤教授・一橋大学名誉教授）には「震災後の日本産業を考える」と題したご講演の中で、震災を契機にして変革を余儀なくされた日本企業とそのアジアへの進出について、フィールドワークに基づく興味深いお話をご披露いただいた。いずれの講演も、講演時間の不足を感じさせる興味深い内容であり、参加者は熱心に聞き入っていた。講演終了後には有意義な質疑応答が交わされた。

10月の講演会では、当研究所の高垣文庫が多くの関連資料を所蔵する経済学者 David Ricardo と John M. Keynes の研究者として著名なお二人の先生をお招きした。出雲雅志氏（神奈川大学教授）は「戦前日本のリカードウ研究」と題してご講演され、リカードウの経済学的功績の日本への導入時期、背景、影響について新たな見解を示された。平井俊顕氏（上智大学名誉教授）は「グローバリゼーションをどうとらえればいいのか 光と影」と題してご講演された。過去30年に渡るグローバリゼーションが新興国の高い経済成長をもたらす一方、ネオ・リベラリズムの台頭と崩壊、ケインズの復活と不況対策の頓挫という流れの中でシャドーバンキングの危険性は放置され、金融システムを統御する制度の重要性が高まったことが指摘された。講演後の質疑応答では、両先生と参加者との間で有意義な意見交換がなされ、盛況な内に幕となった。本号はこうした活動の記録である。お忙しい中、ご協力いただいた学内・学外の諸先生方に厚くお礼を申し上げたい。

本年度は、昨年度から引き続き、研究第2部「成長企業支援の金融システムと政府支援の比較研究」と研究第3部「多極化するグローバル社会におけるビジネスシステムの構築に関する研究」を進める。研究第1部は、新たに「成熟経済の歴史的位相」というテーマで研究活動を開始する。研究所の諸活動をより活性化させていくため、所員をはじめ内外の関係者の方々の一層のご協力をお願いしたい。

「経済研究所年報」刊行一覧

号数	執筆者	タイトル	発行年月
1	堀家文吉郎 中村 英雄 村本 孜 高垣文庫貴重書目録 追加	ソートンの周辺 ジョン・ローの「墓碑銘」といわれるものについて 高垣経済学的一端 追加 1	1988.3
2	堀家文吉郎 麻島 昭一 片木 進 浅井 良夫	貨幣数量説とデビット・ヒューム 日本の金融制度再編 分業主義のゆくえ 決済ネットワーク発展の動向とリスク 占領期の金融制度改革と独占禁止政策	1989.3
3	津田 内匠 長谷川輝夫 井田 進也 宮崎 洋	フランス革命と産業主義 18世紀フランスにおける民衆と活字本 憲法か革命か 明治前期日本人の見たフランス革命 18世紀のフランスにおける旅について	1990.4
4	島村 高嘉 清水 啓典 金井 雄一 伊東 政吉 座談会	中央銀行の政策思想 情報化社会と日本の金融制度 イギリスにおける金融政策の形成と展開 アメリカにおける金融制度改革 金融政策との関連を中心として 高垣寅次郎博士を偲ぶ	1991.4
5	岩武 照彦 松田 博 仁保 義男 シンポジウム インタビュー	『近代中国通貨統一史 十五年戦争における通貨闘争』 について 京都大学経済学部所蔵貴重書 その整理の一こま 防衛支出の最適水準についての一考察（セミナー報告） 金融制度改革 （原司郎・楠本博・高木仁・西條正弘・村本孜） 『世界各国の金融制度』の思い出（大月 高）	1992.4
6	江口 英一 伊藤 正直 大田 弘子 両角 和夫 釜江 廣志	金融政策の中立性と中央銀行の独立性 中央銀行の役割と在り方 フロート制移行期のわが国為替政策をめぐって 保険制度の改革について 保険審議会答申をめぐって 現代農業金融問題と発生背景 日本の国債市場と金利の期間構造	1993.4

号数	執筆者	タイトル	発行年月
6		長期プロジェクト研究報告 世界貿易の進展と構造変化：中間報告（明石茂生） わが国金融・資本市場の制度改革：中間報告（花枝英樹） 協同組織金融機関の制度改革の方向 東京都の地域信用組合の規模の経済性（村本 孜）	1993.4
		ミニ・シンポジウム TSLの金融市場への影響に関する理論分析（北川 浩） 政策金融と中小企業の設備投資（三井 清） 情報の非対称性と資本市場の理論（展望）（久保俊郎）	
		高垣文庫貴重書目録 追加 2	
7	藪下 史郎 橋本 一夫 石野 典 立脇 和夫 原田 泰	日本の銀行制度の安全性：歴史的展望 『信用金庫40年史』をめくって 協同組織金融機関の法制化にみる社会政策的側面 金融システムの安定性 1980年代後半以降の日本の金融経済との関連で 明治政府と英国東洋銀行 付「国立銀行条例」をめぐる疑問点 バブルと金融政策 マネーサプライは外生である	1994.4
		シンポジウム 保険の制度改革 （花輪俊哉・前川 寛・刀禰俊雄・村本 孜）	
	書 評	峰本暁子著『国際金融システムの変革 1797～1988』 近代文芸社 1993年（立脇和夫）	
8	花輪 俊哉 高木 仁 福光 寛 刈屋 武昭 村本 孜 小平 裕	銀行の将来 アメリカ銀行業は衰退産業か？ ナローバンク論とコアバンク論 オプション理論の考え方と応用可能性 金融デリバティブと地域金融機関 わが国の公的年金制度の動学的応用一般均衡分析	1995.4
		ミニ・シンポジウム 金融派生商品の現状（北島英夫） デリバティブの位相（阿部重夫） 最近のデリバティブの動向について（中島敬雄） 金融デリバティブについて 金利スワップの プライシング・ヘッジを中心に（高橋豊治）	
		金融学会1994年春季大会記事	
9	黒川 和美	行政改革のシナリオと地方分権	1996.4

号数	執筆者	タイトル	発行年月
9	伊藤 修	メインバンク制および日本型金融システムの発展と展望	1996.4
	森田 哲彌	外貨換算と原価主義会計	
	米澤 康博	派生取引の機能と現物市場へ与える効果	
	小谷 融	外貨建取引等会計処理基準の改訂について	
	高橋 一	金利の期間構造決定モデル（ ）	
	石川 欽也	『金融仲介機能の新たな展開への対応』（1995年5月）について デリバティブ取引への対応	
	浅井 良夫	追悼の辞 中村先生の思い出	
10	大塚 宗春	金融機関のトレーディング勘定への時価評価の導入について	1997.4
	大西 又裕	企業年金会計の検討課題と方向性について	
	靄見 誠良	アジアの金融制度改革 マレーシアとインド	
	那須 正彦	実務家ケインズとその経済学 中公新書版『実務家ケインズ』に即して	
	小平 裕	企業の組織と非効率性	
11	岡田 清	取引費用経済学の系譜	1998.4
	神田 秀樹	セキュリティゼーションの現状と課題	
	篠原三代平	東アジア経済のダイナミズムを考える	
	高野 義樹	住宅金融システムと債権の流動化	
	小山 明宏	ドイツ証券市場の問題と展望	
	シンポジウム	日本経済の構造変化と金融システム改革 問題提起 (寺西重郎) 金融システムの国際比較と日本版 ビッグ・バン (黒田晁生) 証券市場からみた金融ビッグ・バン (米澤康博) 金融技術革新の潮流 リテール金融との関連で (村本 孜) 情報化と金融システム改革 (池尾和人) 討論	
12	石 弘光	二元的所得税論について 利子・譲渡益をいかに課税すべきか	1999.4
	井堀 利宏	財政構造改革のゆくえ	
	林 健久	地方財政と経済政策・景気政策	
	吹春 俊隆	Newton 法による一般均衡解の計算	
	花枝 英樹	資産証券化の経済分析	

号数	執筆者	タイトル	発行年月
12	吉川 卓也	財務データからみたわが国企業の資産調達の特徴 および企業規模別借入金利率の計測	
13	田中 素香	EU 通貨統合と国民経済 グローバル化への対応を中心に	2000 . 4
	内田 真人	欧州通貨統合と金融政策 統合後 1 年の課題と展望を中心に	
	田中 俊郎	EU 統合の現状と展望 拡大と深化の視点から	
	西沢 保	救貧法から福祉国家へ 世紀転換期の貧困・失業問題と経済学者・官僚	
	秋元 英一	アーヴィング・フィッシャーとニューディール	
	明石 茂生	ケインズ『一般理論』再読 失いし世界	
14	小川 英治	通貨バスケット制導入の効果と障害	2001 . 4
	原田 泰	統合は平和と繁栄をもたらすか 経済統合とアジア	
	根本 忠宣	欧州における金融システムの多様性と統合の影響	
	原 洋之介	世界史のなかのアジア経済 グローバリズムと地域性の経済学	
	斎藤 純一	社会国家と統治の変容	
15	後藤 晃	日本のナショナル・イノベーション・システムと その改革	2002 . 4
	島野 卓爾	欧州中央銀行 (ECB) のインフレーション・ターゲティング	
	長谷川公敏	日本経済はなぜ回復しないのか	
	宮川 公男	挑戦を受ける 21 世紀の資本主義文明	
	高月 昭年	日米銀行法制の違いと法律の沈黙	
16	首藤 惠	金融危機後のアジア資本市場の再構築	2003 . 4
	堀内 昭義	第二次大戦後の金融システムの機能を評価する 銀行経営ガバナンスの視点	
	楠本くに代	「金融商品の販売等に関する法律」(「金融商品販売法」) 施行後の金融消費者保護の実態と取り組むべき緊急 の課題 英国「2000 金融サービス・市場法」と法施 行後の FSA の取り組みを参考に	
	田尻 嗣夫	郵便預金・簡易生命保険の資金運用と欧米運用機関の教訓	
	村本 孜	グローバル化と効率・公平 展望と金融排除	

号数	執筆者	タイトル	発行年月
17	藤田 誠一	グローバル化とユーロ登場の意味	2004.4
	浅沼 信爾	アジアの経済発展とグローバル化	
	斎藤 聖美	ベンチャーで日本を活性化する	
	平尾 光司	アメリカにおけるベンチャーキャピタルの発展過程	
	江夏 由樹	中国東北地域の土地をめぐる中国と日本	
18	小野 有人	アジア域内における「最後の貸し手」の意義と課題	2005.4
		国際金融機関による政策競争の観点から	
	石山 嘉英	国際資本移動の増大と為替レート制度の選択	
	駒村 康平	21世紀型の社会保障制度を求めて 2025年を視野に入れた改革	
	石 弘光 佐藤 宏	少子・高齢社会における税・社会保障制度負担のあり方 現代中国における国家と農民 税制改革と所得分配	
19	日向野幹也	小口金融における実店舗と「動線」の役割	2006.4
		日米英独の経験	
	岩田 健治	EU（欧州連合）の新しい金融サービス政策	
	矢野 誠	M&A 市場とその質	
	高橋 伸子	金融経済教育の現状と課題 金融消費者，個人投資家は育つか	
	瀧澤 弘和 相原 章	比較制度分析：枠組みと最近の展開 コンピテンシーに基づく HRM の動向	
20	和田 一夫	年産200万台を超えるT型車をフォード社はどのよ うに達成したか？	2007.4
		フォード社の生産システム再検討	
	栗原 裕	量的緩和策の評価と課題	
	十川 廣國	企業と市場・社会 CSR の意義を考える	
	池本 正純	企業家論の視点とコーポレートガバナンス	
	堀内 圭子	浮世絵を生かしたまちづくり 小布施町の北斎と墨田区の北斎	
21	経済研究所創立20周年記念		2008.4
	伊丹 敬之	世界の中の日本，歴史の中の日本	
	岡田 清	わが国における金融経済学の発展 高垣寅次郎先生の事績	
	Ichiro Uesugi Koji Sakai and Guy M. Yamashiro	Effectiveness of Credit Guarantees in the Japanese Loan Market	

号数	執筆者	タイトル	発行年月
21	大森 弘喜 シンポジウム	「都市空間論」の射程 イノベーション・システムの進化とそのガバナンス 趣旨説明 (伊地知寛博) 知的財産権制度の展開とイノベーション (小田切宏之) イノベーションの質的变化と新たな ガバナンスシステムの模索 (元橋 一之) アジアにおけるグローバル・イノベーション・ ガバナンスの構築にむけて (角南 篤) 討論	
22	寺西 重郎 鹿野 嘉昭 吉田 悦章 内田 真人 南里光一郎 平田 英明	明治大正の投資家社会 2003年以降における中小企業の経営財務面での 動きをめぐって CRD の分析結果から イスラム金融 国際金融界の新潮流 グローバルにおける住宅金融の急展開と混乱 スコアリング貸出の課題 新銀行東京を例に	2009 . 4
23	原田 泰 井手 英策 水野 和夫 鎮目 雅人	日本国の原則 自由, 民主主義, 経済発展, 戦争, 平和について考える マクロ・バジェットティングと増税なき財政再建 高橋財政の歴史的教訓 21世紀は陸と海のたたかい ~ アメリカ金融帝国の終焉と資本主義の誕生 ~ 世界恐慌と経済政策 『開放小国』日本の経験と現代	2010 . 4
	文献解説 中川 和彦	カルロス, F. R. およびセレスティーノ, R. E 共編 メキシコにおける中小企業: 現状および戦略的挑戦	
24	鶴 光太郎 内田 聡 山上 秀文 渡邊 頼純 福井 俊彦	労働市場制度・雇用システム改革 労働市場二極化問題を中心に アメリカの金融システム ~ウォールストリートとメインストリート~ 経済開発に果たす国際プロジェクトファイナンスの役割 忍び寄る「新保護主義」と国際通商体制 WTO, FTA/EPA, そして TPP の役割 60周年記念特別講演	2011 . 4

号数	執筆者	タイトル	発行年月
24		「厳しい生存競争に立ち向かう」	
25	岩田規久男 斉藤 美彦 権上 康男 倉都 康行 小平 裕	なぜ、日本銀行の金融政策では デフレから脱却できないのか 国債累積と金融システム・中央銀行 欧州通貨統合史の神話と実相 スネイクから EMS へ 準備（基軸）通貨の来し方・行く末 ネット公売の収入最大化	2012.4
26	浦田秀次郎 松宮 基夫 西沢 保 矢後 和彦 内田 真人	日本のアジア太平洋経済戦略：TPP への対応 欧州債務問題の現状とグローバル経済への影響 創設期の厚生経済学と福祉国家 マーシャルにおける経済進歩と福祉を中心に 国際決済銀行の過去と現在 非伝統的金融政策の効果と限界：デフレ脱却と金融政策	2013.4
27	田中 信孝 渡瀬 義男 代田 純 池島 正興 村本 孜	検証・日本の財政 財政赤字の構造分析 アメリカの予算編成過程と財政民主主義 EU の国債とアベノミクス 戦後アメリカの国債管理と国債 日本型モデルとしての中小企業支援・政策システム 中小企業金融を中心した体系化	2014.4

「研究報告」(グリーン・ペーパー) 刊行一覧

1	花枝 英樹	自己株式取得と企業財務	1994.1
2	明石 茂生	世界貿易の進展と構造変化：1861 1991	1994.1
3	村本 孜	協同組織金融機関の健全経営の一考察 労働金庫の自己資本の充実	1994.6
4	村本 孜	生命保険会社の競争力について 銀行業務兼営を考慮した規模・範囲の経済性	1994.6
5	吉川 卓也 小平 裕	生命保険需要の特性分析 簡易保険と民間生命保険	1995.3
6	明石 茂生	国際収支と構造変化：1881 1991	1995.3
7	花枝 英樹	なぜ企業は財務リスク管理を行うのか	1995.3
8	村本 孜	協同組織金融機関の合併の一考察 労働金庫の規模の経済性の計測	1996.3
9	山口 一臣	アメリカ食品企業の環境戦略	1996.6

号数	執筆者	タイトル	発行年月
9		マクドナルド社, スターキスト社 (ハインツ子会社)の事例を中心として	
10	小平 裕	金融機関のX非効率性の計測	1997. 2
11	浅井 良夫	経済安定本部調査課と大来佐武郎	1997. 3
12	海保 英孝	フィージビリティ・スタディの諸問題	1997. 3
13	手塚 公登	企業の資本構成と取引コストの理論	1997. 3
14	山田 稔	建設業労働者の賃金・賞与・退職金・年金 労務管理論的考察	1997. 11
15	池田 和宏	J. S. ミル国防論に関する一考察 1860年におけるアイルランド植民地との関連で	1998. 1
16	立川 潔	J. S. ミルのリベラリズム批判 社会再生における権威の必要性の認識	1998. 3
17	海保 英孝	業績の悪化と回復の作用機序について その論点とインプリケーション	1998. 3
18	村本 孜	家計貯蓄率の将来推計	1998. 3
19	岩崎 尚人	企業間ネットワーク構築による戦略的革新の実現	1998. 3
19	神田 良	中小トラック企業のケースから	
20	吉川 卓也	日本の個人金融資産需要の特性	1998. 3
21	福光 寛	資産担保証券の財務的意義について	1999. 3
22	角田 俊男	ヒュームの情念論と判断力 『人間本性論』をとおして	1999. 3
23	花枝 英樹 吉川 卓也	資本構成問題の再検討	1999. 6
24	村本 孜	金融システムの国際比較分析 市場統合・通貨統合のもたらすもの	2000. 3
25	浅井 良夫	「新長期経済計画」と高度成長初期の経済・産業政策	2000. 3
26	篠原 光伸	デリバティブとヘッジの会計 国際会計基準設定までの推移と今後	2000. 3
27	塚原 英敦	Empirical Copulas and Some Applications	2000. 12
28	山重 芳子	An 'Austrian' Model of Environment and Trade	2001. 1
29	手塚 公登	企業特殊的人的投資とアウトプットの最大化	2001. 3
	井上 正		
30	立川 潔	若き S. T. コウルリッジの急進主義思想(上) 1795年プリストル道徳政治講演の啓示宗教的基礎	2001. 3
31	福光 寛	公社債投資信託の元本割れをめぐって	2002. 3
32	角田 俊男	周縁にとっての主権と商業 ブリテン, ヨーロッパの 公共空間を開くヒューム哲学	2002. 3
33	福島 章雄	経済・市場統合の展開 NAFTA の成立とメキシコの通貨危機	2002. 3

号数	執筆者	タイトル	発行年月
34	小平 裕	Mathematica によるミクロ経済学	2002.3
35	Gordon de Brouwer	The IMF and East Asia : A Changing Regional Financial Architecture	2003.3
36	手塚 公登 浅野 義	年金民営化と「スイッチング」問題	2003.3
37	福島 章雄 峯岸 信哉 村本 孜	経済統合の類型と金融システム・金融政策	2003.3
38	明石 茂生	「前近代」世界システム：形成と変容	2004.3
39	山村 延郎 松田 岳	米独の預金保護制度の比較分析 破綻処理と規律付けを中心に	2004.3
40	村本 孜	アメリカの地域金融促進政策 CRA の問題	2004.3
41	小平 裕 佐々木覚亮	わが国の社会会計行列の作成	2004.5
42	浅井 良夫	IMF 8 条国移行と貿易・為替自由化（上） IMF と日本：1952～64年	2005.3
43	大森 弘喜	近代フランスにおける労使関係とディリジスム	2006.3
44	上田 晋一	二酸化炭素排出枠の公正価値会計： IFRIC 第3号の検討	2006.3
45	岩崎 尚人 海保 英孝 相原 章 福田 和久 都留 信行	中堅・中小企業の ステイクホルダー・マネジメントの研究	2006.5
46	浅井 良夫	IMF 8 条国移行と貿易・為替自由化（下） IMF と日本1952～64年	2007.3
47	福光 寛	証券化の功罪：サブプライム問題を振り返る	2007.10
48	沼尻 晃伸	戦間期・戦時期日本における方面委員論に関する 一考察 都市社会事業と「公」・「公共」	2008.3
49	西久保浩二	福利厚生制度の現状と課題	2008.3
50	小藤 康夫	大学経営の構造と機能	2009.2
51	小平 裕	経営者報酬と企業の行動目的	2009.3
52	大岡 聡	昭和戦前・戦時期の百貨店と消費社会	2009.4
53	数阪 孝志	地銀決算にみる地域金融の問題点	2010.4
54	Carlos Fong Reynoso Taku Okabe Akio Fukushima and Tomohiro Kakihara	Some Issues of the Medium-and Small-Sized Enterprises in Mexico	2010.6
55	角田 俊男	都市共和国の伝統を継受する専制帝国 啓蒙の歴史叙述とピョートルの改革	2010.12

号数	執筆者	タイトル	発行年月
56	大隈 宏	EU とミレニアム開発目標 グローバル・パートナーシップの模索	2012. 2
57	明石 茂生 柿原 智弘	日系企業のメキシコ進出： ハリスコ州の事例を中心に	2012. 3
58	岩崎 尚人 相原 章 橋本 菜子	人的資源管理システムの構築に関する研究 ダイバーシティ・マネジメントへのアプローチ	2012. 3
59	中田真佐男	消費者による小額決済手段選択の現状： アンケート調査を用いた分析	2012. 9
60	駒形 哲哉	中国の社会主義市場経済と中小企業金融	2012. 9
61	青山 和正	ベトナムの中小企業政策に関する研究 ベトナムの中小企業振興施策の現状と課題	2013. 1
62	角田 俊男	越えがたい懸隔と永久の分離 パークと東インド会社の帝国統治1778-95年	2013. 2
63	Jesus Arroyo Alejandro	Regional development in Mexico	2013. 3
63	David Rodríguez Álvarez	–socio-economic regional development	
	Salvador Carrillo Regalado	and foreign direct investment–	
	Taku Okabe		
	and Tomohiro Kakihara		
64	福光 寛	中国概念股の危機はなぜ生じたのか	2013. 7
65	村本 孜	中小企業憲章の制定とその意義 中小企業政策のイノベーション	2013. 7
66	長谷川 清	リレーションシップバンキング行政の成果と課題	2013. 11
67	立川 潔	エドモンド・パークにおける市場と統治 自然権思想批判としての『穀物不足に関する思索と詳論』	2014. 3
68	福光 寛	中国のシャドーバンクをどうとらえるか さまざまな定義の併存 肯定説と中小企業金融への貢献説	2014. 11
69	福光 寛	中国の銀行理財についての規制	2015. 1
70	岩崎 尚人 黄 賀	中国の経済成長と展望	2015. 2

「モノグラフ」刊行一覧

1	村本 孜	制度改革とリテール金融 (平成6年 中小企業研究奨励賞を受賞) (平成9年 生活経済学会賞を受賞)	1994. 3
---	------	---	---------

- | | | | |
|---|---|-------------------------|----------|
| 2 | 白鳥庄之助
村本 孜
花枝 英樹
明石 茂生
(共著) | 金融デリバティブの研究
スワップを中心に | 1996 . 3 |
| 3 | 村本 孜
(編著) | グローバリゼーションと地域経済統合 | 2004 . 3 |

* バックナンバーをご希望の方は、当研究所までご連絡下さい。

問い合わせ先：成城大学経済研究所

〒157 8511 東京都世田谷区成城 6 1 20

TEL : 03 3482 9185 ,9187

FAX : 03 3482 7851

e-mail : keiken@seijo.ac.jp

成城大学 経済研究所年報 第28号

平成27年4月10日 印刷

平成27年4月20日 発行

非売品

発行責任者 手塚公登

発行 成城大学経済研究所

〒157 8511 東京都世田谷区成城 6 1 20

電話 03(3482)9187 番

印刷所 白陽舎印刷工業株式会社

THE ANNUAL BULLETIN
of
The Institute for Economic Studies

No. 28

April 2015

CONTENTS

Preface	1
Articles	
Small Manufacturers of Japanese and Chinese in Guangdong ChinaMitsuhiro SEKI.....	7
Current Trends and Issues of the Chinese Economy – Xi Jinping Regime Trying to Avert the “Two Traps”C. H. KWAN.....	81
How could we interpret “Globalization”? – Light and shadowToshiaki HIRAI.....	107
Ricardo studies in Japan 1869-1929	Masashi IZUMO.....133
Markets, States and Money in Ancient Mesopotamia : The Mercantile Economy Reconsidered	Shigeo AKASHI.....163
Communications	237